水稲の９月上中旬の巡回調査結果の概要

【東北信】　調査日　９月１日、２日、６日

＜東北信地域の巡回調査ほ場：東信 15 ほ場、北信 14 ほ場、計 29 ほ場＞

１　穂いもち

(1)発生地点率は、東信地域では平年と比べやや低く、北信地域では平年並であった。

(2)穂いもち被害籾率は、東信地域、北信地域ともに平年と比べ低かった（写真１）。



写真１　穂いもち（東信地域）

２　紋枯病

(1) 発生地点率は、東信地域、北信地域ともに平年と比べ高かった。

(2)発病株率は、東信地域、北信地域ともに平年と比べ高かった。特に、北信地域の巡回ほ場の一部では、前年と比べ発病株率の急激な上昇がみられた（写真２）。



写真２　紋枯病（北信地域）

３　白葉枯病、ごま葉枯病、小粒菌核病

いずれの病害も巡回調査ほ場では、発病はみられなかった。

４　稲こうじ病

(1) 北信地域の巡回調査ほ場では、発病はみられなかった。

(2) 東信地域の発病地点率は、平年と比べ低かった。

(3) 東信地域の発病株率は、平年と比べ低かった（写真３）。



写真３　稲こうじ病（東信地域）

５　ニカメイガ（ニカメイチュウ）

(1) 白穂の発生地点率は、東信地域では平年並、北信地域では平年と比べ高かった。

(2) 白穂率は、東信地域では平年と比べ低く、北信地域ではほぼ平年並であった。

６　ツマグロヨコバイ・ウンカ類

(1) ツマグロヨコバイ

ア すくい取り調査（ネット 20 回振）における成虫の発生地点率は、東信地域、北信地域ともに平年並であった。

イ すくい取り調査（ネット 20 回振）における成虫の捕獲頭数は、東信地域では平年と比べ多く、北信地域では平年並であった。

(2) セジロウンカ

ア すくい取り調査（ネット 20 回振）における発生地点率は、東信地域では平年並、北信地域では平年と比べやや低かった。

イ すくい取り調査（ネット 20 回振）における成虫の捕獲頭数は、東信地域、北信地域ともに平年と比べ少なかった。

(3) トビイロウンカ

巡回調査ほ場でのすくい取り調査（ネット 20 回振）では、発生はみられなかった。

７　イチモンジセセリ（イネツトムシ）

(1) イチモンジセセリ（イネツトムシ）による『つと』の発生地点率は、東信地域では平年と比べやや高く、北信地域では平年と比べ高かった。

(2) 『つと』の確認数は、東信地域、北信地域ともにほぼ平年並であった。

８　斑点米カメムシ類

(1) すくい取り調査（ネット 20 回振）における発生地点率は、東信地域、北信地ともに平年と比べ高かった。

(2) すくい取り調査（ネット 20 回振）における捕獲頭数は、東信地域、北信地域ともに平年と比べ多かった。

(3) 斑点米カメムシ類の発生類は、アカスジカスミカメが最も多く、次いでホソハリカメムシ及びアカヒゲホソミドリカスミカメの順であった。

９　その他

(1) イナゴ

ア 東信地域の巡回調査ほ場でのすくい取り調査（ネット 20 回振）では、発生はみられなかった。

イ すくい取り調査（ネット 20 回振）における発生地点率は、北信地域では平年と比べ高かった。

ウ すくい取り調査（ネット 20 回振）における捕獲頭数は、北信地域では平年と比べ少なかった。

(2) クサキリ類

ア すくい取り調査（ネット 20 回振）における発生地点率は、東信地域では平年と比べやや高く、北信地域では平年と比べ高かった。

イ すくい取り調査（ネット 20 回振）における捕獲頭数は、東信地域では平年と比べやや多く、北信地域では平年と比べ多かった。

ウ 白穂被害は、東信地域では平年並、北信地域では平年と比べ高かった。

(3) コブノメイガ

巡回調査ほ場では、コブノメイガによる被害葉はみられなかった。

【中南信】 調査日 ９月１日、２日、14 日、15 日、17 日、18 日

＜中南信地域の巡回調査ほ場：南信 15 ほ場、中信 17 ほ場、計 32 ほ場＞

※収穫、降雨による欠調ほ場あり

１ 穂いもち

(1) 発生地点率は、南信地域、中信地域ともに平年と比べ低かった。

(2) 発病株率は、南信地域、中信地域ともに平年と比べ低かった。

２ 紋枯病

(1) 発生地点率は、南信地域、中信地域ともに平年と比べ低かった。

(2) 発病株率及び発病度は、南信地域で平年並、中信地域で平年と比べ低かった。一方、常習発生ほ場では発病株率及び発病度が高いほ場もみられた。

３ 白葉枯病、ごま葉枯病、小粒菌核病

(1) 白葉枯病の発生は、巡回調査ほ場では確認されなかった。

(2) ごま葉枯病の発生地点率及び発病株率は、南信地域、中信地域ともに平年と比べ高かった（写真４）。

(3) 小粒菌核病による倒伏は、巡回調査ほ場では確認されなかった。



写真４ イネごま葉枯病（中信地域）

４ 稲こうじ病

巡回調査ほ場では確認されなかった。なお、諏訪地域の常習発生ほ場（令和７年は発生わず３かにあり）でも、発生はみられなかった。

５ ニカメイガ（ニカメイチュウ）

幼虫加害による白穂の発生は、調査ほ場の一部で確認されたもののごく少なく、調査ではカウントされなかった。

6　ツマグロヨコバイ・ウンカ類

(1)ツマグロヨコバイ

ア すくい取り調査（ネット 20 回振：以下同様）による発生地点率（成虫）は、南信地域では平年に比べ高く、中信地域では平年並であった。

イ 成虫の捕獲頭数は、南信地域、中信地域ともに平年と比べ高かった。

(2)セジロウンカ

ア すくい取り調査による発生地点率（成虫）は、南信地域、中信地域ともに平年と比べ低かった。

イ 成虫の捕獲頭数は、南信地域、中信地域ともに平年と比べ少なかった。

(3)トビイロウンカ

巡回調査ほ場でのすくい取り調査では、確認されなかった。

7　イチモンジセセリ（イネツトムシ）

(1) 常習発生地である南信地域の巡回調査ほ（一地点）及び周辺一帯の晩生品種ほ場で、『つと』がみられた（写真５）。中信地域の巡回調査ほ場では確認されなかった。

(2) 『つと』の確認数は平年と比べ高かった。



写真５　イネ紋枯病の罹病葉でつづられた
イネツトムシのつと（南信地域）

8　斑点米カメムシ類

(1)すくい取り調査による発生地点率は、南信地域で平年と比べ高く、中信地域で平年と比べやや低かった。

(2)捕獲頭数は、南信地域、中信地域ともに平年並であった。

(3)種類別では、アカスジカスミカメが南信地域、中信地域で広く捕獲され、頭数も多かった。

9　その他

(1)イナゴ

ア すくい取り調査による発生地点率は、中信地域で平年と比べやや低かった。南信地域では捕獲されなかった。

イ 捕獲頭数は、平年と比べ少なかった。

(2)クサキリ類

ア すくい取り調査による発生地点率は、南信地域、中信地域ともに平年と比べ低かった。

イ 捕獲頭数は、南信地域、中信地域ともに平年と比べ少なかった。

ウ 白穂被害は、南信地域、中信地域ともに平年と比べ少なかった。

(3)コブノメイガ

巡回調査ほ場では、コブノメイガによる被害葉はみられなかった。